

半導体漫遊記

湯之上隆

(341)

半導体の3大国際学会の一つ、VLSIシンポジウム2024が6月16〜20日、ヒルトン・ハワイアン・ビレッジ・ホテルで開催される。それに先立って、4月19日に記者会見が行われた。

昨年2023年に京都で開催されたVLSI2023では、投稿論文数も採択論文数も非常に多く、参加者も会場に入りきれないほどの大盛況だった。今年24年はどうなるのかと思っていたら、昨年以上に投稿論文数も採択論文数も増加した。しかも投稿論文数の増え方が半端ではない。過去最多だった23年の632件より265件も多い897件もの投稿があったのである。

この数年は他国に大きな差をつけられている。次に採択論文数について見てみよう。24年は897件もの論文が投稿されたが、採択論文数は232件にとどまった。これでも論文委員はクオリティの高い論文を最大限採択しようとしたそうである。しかし

文数は米国に次ぐ2位に位置していたが、その後、多少の上下動があるものの右肩下がりに低下していき、ここ数年は他国に大きな差をつけられている。次に採択論文数について見てみよう。24年は897件もの論文が投稿されたが、採択論文数は232件にとどまった。これでも論文委員はクオリティの高い論文を最大限採択しようとしたそうである。しかし

論文数が飛躍的増加

半導体の国際学会 中韓躍進、日本は低迷

数の推移を見てみると、中国が237件および韓国が187件と驚異的に増大し、米国の167件を抜いて、それぞれ1位および2位に躍進した。その他、欧州も台湾も昨年より投稿論文数を増やしている。

学会の時間と会場の広さに制約があることから、これ以上の論文を採択することはできなかったという。従って、もし今後も投稿論文数が増え続けるのなら、もっと広い会場に変更するなどの対応策が必要になるだろう。

中国にも20件以上の差をつけられてしまった。中国は237件を投稿して、採択が37件にとどまっている。今のところ採択率は高くないが今後、投稿論文のクオリティが上がってきたら一気に米国や韓国に追いついてしまうだろう。

一方、日本は投稿論文数も採択論文数も減少の一途をたどっており、もはや中

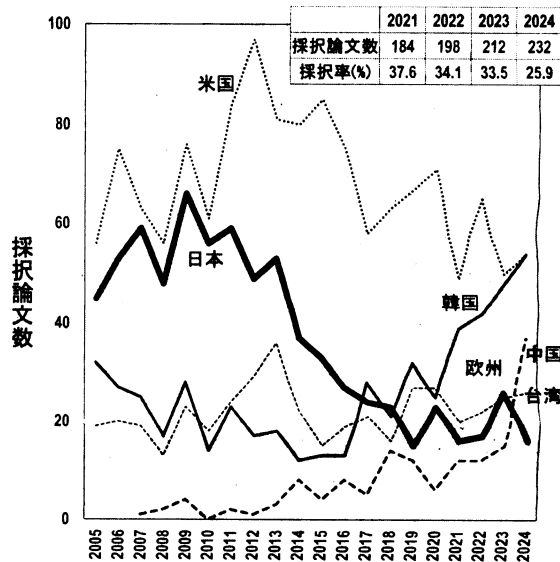
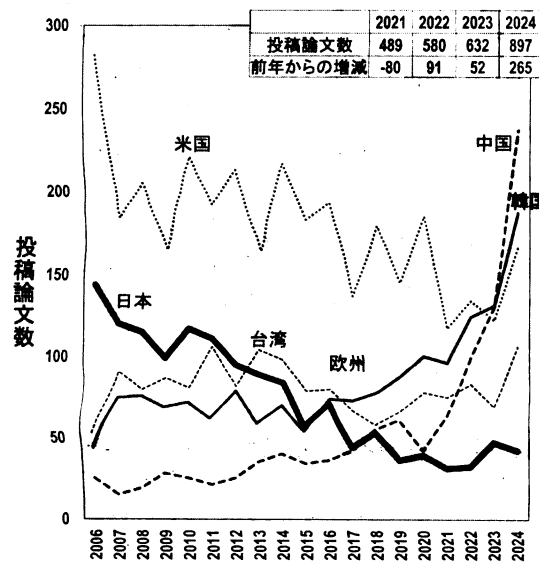
昨年、記者会見ではコロナのリスクが低減し、海外に出かけて発表したいというモチベーションが、投稿論文数の増大につながって

国が投稿論文数を増やしている中で、日本だけが論文数を減少させている。10年ごろまでは、日本の投稿論文

死守してきた米国が、とう

重要な国際学会の論文数が

このような体たらくでは「復活」は夢物語であると言わざるを得ない。(微細加工研究所・所長)



投稿論文数 採択論文数 VLSIシンポジウムの地域別の投稿論文数と採択論文数

出所:VLSIシンポジウムの記者会見の資料を基に筆者作成